

学びの灯

ようこそ、広島都市学園大学 子ども教育学部へ

子ども教育学部には、様々な研究をされている先生方がいらっしゃいます。

このページでは、毎月、一人一人の先生方の思いや考え方などを記していただき、読んだ皆さんの心や頭に「学びの灯」をともします。

一つ一つの「灯」は、いくつか集まると、きっと大きな明るさとなり、皆さんの未来を明るく照らすものとなるでしょう。

また、ある「灯」は皆さんの拠り所となって、どんなときであっても、希望と温かさを保ち続けてくれるでしょう。

さらに、皆さんが「新しい灯」をともし、多くの人々の未来を明るく照らすことに役立つことでしょう。

さあ、今月は、どんな灯でしょうか？



「臨むということ」

「乳幼児心理学」「発達障害カウンセリング論」担当

子ども教育学科教授 田丸尚美

この夏、2年生たちはサマーコンサートに取り組みました。本学の子どもケアセンター「いーぐる」に来られる親子に、教員指導の下で磨きをかけてきた歌や演技を楽しんでもらう場です。「見せる」意識をもって、皆の気持ちを一つにしていくのに苦心していたようですが、小さな子どもたちを前に本番に臨んだとき、それまでの苦心を力に変えて、いい表情で舞台に立っていました。一緒に楽しみたいと期待されるお母さん方に見守られ、子どもたちの一心なまなざしを受けとめて、生き生きと表現しました。

発達臨床を専門とする私の目には、学生たちのさまはその場に「臨む」という真摯な姿に映りました。そのひと時は、瞬時に過ぎ去っていくかもしれません。でも、その空間をともにした歓びは、「一瞬の『いま』を、千秒にも生き」ⁱたように膨らんで、それぞれに体験されたと感じました。

出会った人の人生や心の世界が交差するところに立ち、その相手に向きあうことは、ケアをする場はもちろん、授業や遊びという活動のなかでも欠かせないものです。どんなに準備をしても、思いがけないことが起きるのが生の現場…相手の今の心の動きを読み取り、それまでの来し方、育ちの物語を想像して、その人に関心 **interest** を向ける…まさしく相手に関係をつなぎ、心を架けることに支えられています。

あの一瞬に共有できた歓びが、学生の中でどのように芽吹くのが楽しみです。

ⁱ 林 光「森は生きている」一ツ橋書房より